

主体的に学ぶ力の育成に関する取組例(第2学年の実践より)

平成30年7月20日

足立区立第九中学校
長塚琢磨

現状と課題

【目指す生徒像】

「**磨く** (自己のよさを知り向上する)」「**挑む** (新たなこと等に挑戦する)」「**思いやる** (自他を大切に)」

【課題】

- ・40の小学校から来た様々な生徒たちによる一体感のある学びの環境づくり
- ・家庭等における学習習慣の確立
- ・学ぶこと、学び合う事の楽しさを味わう指導の工夫

学力向上の方向性

【目標とする視点】会・合・愛の教育

九中で出会った学級を中心とする仲間と共に、学ぶことの意義や学び方への理解を深め、学び合う。自他を**愛**し、思いやる心で実践する。



主体的に学ぶ態度を養う。その取組の結果として、学力調査等の通過率65%を目指す。

学校教育と学力

【教育基本法】【学校教育】(第6条)

教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の**心身の発達に応じて、体系的な教育**が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な**規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲**を高めることを重視して行われなければならない。

【学校教育法】【学校教育の目的】(第30条の2 参考)

生涯にわたり学習する基盤が培われるように、①**基礎的な知識及び技能の習得**、②**思考力、判断力、表現力等**を育む、③**主体的に学習に取り組む態度**を養う。

第1学年 昼休み等を活用した学びあい活動

【学びに向かう態度の育成】4月～

- ・授業中や朝学習など、静かに机に向かい自己を高めるなど、みんなで学ぶときのルールやマナーを徹底する。
- ・自己の課題を明確にして、目標を設定する。

【学習コンテストと個別指導】6月～

- ・身に付いた力を学習コンテストで確認する。
- ・基礎的な学力が身に付いていない場合には、個別に指導や助言を繰り返す。
- ・ESLの導入により基礎学力の定着を図る。
- ・三者面談等で課題の明確化と学び方の助言を行い、家庭における学習習慣の確立を目指す。

【自主的な学びあい】11月～

- ①生徒に学習に関する課題を投げかけ考えさせる。
- ②生徒が問題などを作成し、生徒による教え合い教室を行うことを周知する。
- ③昼休みを活用して、希望者を対象とした教え合い教室を実施する。
- ④学習コンテストを実施する。



生徒の自主的な勉強会
(昼休みの様子)



集団で達成率90%超え

発展

第1学年末～第2学年 学級活動における学ぶ意義と学び方の実践

【読書活動の充実】1月～

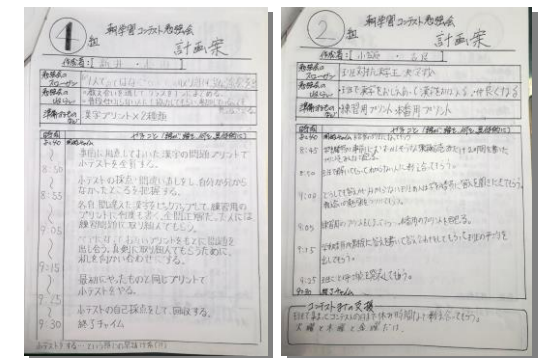
- ・朝学習の工夫：落ち着いて本を読む習慣づくり
- ※学力調査の結果から、読解力が低いこと、読書量が少ないことが分かった。

【到達度テストの実施と対策】2月～

- ・調査結果を踏まえ、学習カウンセリングや個別指導の実施
- ・ESLで年度末までに基礎学力の定着を目指す。

【学級活動での主体的・対話的な学びの基礎づくり】4月～

- ・生徒は、学びのルール・マナーの確認と新たな目標の設定を行う。
- ・学級として、「大切な学び」に取り組む。
 - ①朝学習等の状況について代表生徒に学習状況等を把握させる。
 - ②コンクールを有効にするための方策を考えさせる。
 - ③全学級の企画書を情報共有し、微修正する。
最終の企画案を作成し、担任に説明してアドバイスをもらう。
 - ④学級活動で、代表生徒が説明し、企画書のとおり実施する。
※学習コンテストを実施し、成果を検証する。



代表生徒が作成した企画書



生徒による学級活動(説明)



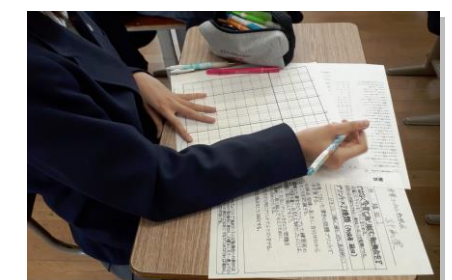
教え合い活動

【成果と新たな課題】6月～7月

- ・生徒の学習意欲は高まってきており、学習に向かう態度は向上した。また、学級のまとまりが強くなってきている。
- ・学力の定着については、各学級とも15～20パーセント向上した。
課題① リーダーに引っ張られている生徒が多く、自主的な態度を育成すること
課題② 家庭と連携し、生徒一人一人が学習習慣を確立すること

※ 中学校学習指導要領解説「特別活動」学級活動(3) 学業と進路 より

自己の将来の夢や希望を抱き、意欲的かつ主体的に学習に取り組むとともに、将来の生き方や進路に関する体験を得たり、情報の活用を図ったりしながら、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意思と責任で考え選択していくことは中学生にとって極めて重要なことである。



企画書と問題で勉強